

総合計画／実施計画書 兼 事業事業評価シート

事業期間 H20 ～ H22

担当部局	部局名	産業経済部
	課室名	農業振興課

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）	
基本施策ID	基本施策名
4 - 1 - 3	多様な担い手を育成する
重点施策ID	重点施策名
- - -	

2. 事業名等	
事業名	乳用牛保留事業補助金
事業区分	②
細事業名	
事業主体	市
事業種別	① ①自治事務 ②法定受託事務
実施期間	平成 18 年度 ～ 平成 22 年度
根拠法規	豊後大野市畜産振興補助金交付要綱
各種の計画への反映（=根拠計画）	豊後大野市農業振興計画
事業ID	18028

3. 事業の内容等											
事業の背景	<p>現在酪農経営については、生産調整、さらに乳価の下落により大変厳しい経営環境になっている。加えて、自家保留の育成による育成経費が増え、経営を悪化していることから、育成経費の一部助成を行い、経営の安定を図る。</p>										
補助事業	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>補助率</th> <th>国</th> <th>県</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1/</td> <td>1/</td> <td>1/</td> </tr> </table>	名称	補助率	国	県	その他			1/	1/	1/
名称	補助率	国	県	その他							
		1/	1/	1/							
起債の種類	① ② ③										

事業の目的及び対象	<p>【目的】 農家で生産された乳用牛を自家保留し、育成牛として飼育管理に要する経費の一部を補助することにより、酪農経営の体質強化を図る。</p> <p>【対象】 酪農経営者</p>		
事業概要	<p>[補助条件]①生後12月以上24月未満のもので血統登録書を保持していること②補助金交付後3年間は保留すること③大分県南部農業共済の家畜共済に加入するとともに事故が発生した場合は、速やかに市長に報告すること④豊後大野市畜産共済会に必ず出品すること。 [補助金額]1頭当たり50千円以内の予算で定める額とする。</p>		
前年度の評価	<table border="1"> <tr> <th>評価結果に基づき見直した内容</th> </tr> <tr> <td>E 維持</td> </tr> </table>	評価結果に基づき見直した内容	E 維持
評価結果に基づき見直した内容			
E 維持			

4. 予算・決算の状況		(単位：千円)						
財源内訳		H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23～
予 算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源		4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	計		4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	
決 算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源		4,000	4,000				
	計		4,000	4,000				

5. 実績及び達成目標等							
過去3年間の事業実績と課題							
平成17年度	<table border="1"> <tr> <th>平成18年度</th> <th>平成19年度</th> <th>課題</th> </tr> <tr> <td>【実績】 保留頭数：80頭</td> <td>【実績】 保留頭数：80頭</td> <td>優良乳用牛集団の構築。</td> </tr> </table>	平成18年度	平成19年度	課題	【実績】 保留頭数：80頭	【実績】 保留頭数：80頭	優良乳用牛集団の構築。
平成18年度	平成19年度	課題					
【実績】 保留頭数：80頭	【実績】 保留頭数：80頭	優良乳用牛集団の構築。					

達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値									
活動指標	助成額								
効率指標	前年度決算額＞当該年度決算額 ⇒ 平成21年度は、コスト評価（経済性、効率性、効果性）を実施する。								
成果指標	自家保留頭数								
	単位 頭								
年度	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	備考		
種別			頭数	頭数	頭数	頭数			
目標値			80	80	80	80			
実績値			80						
達成率			100.0%						
備考									

総合計画／実施計画書 兼 業務事業評価シート

評価対象年度 H19 年度

評価実施年度 H20 年度

担当部局	部局名	産業経済部
	課室名	農業振興課

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	酪農振興を図る上では、自家保留による育成を行うことが重要であるため。				
行政の 与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	4	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを供給できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	民間による補助が行われておらず、行政が実施主体となる必要がある。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	4	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	優良乳用牛の保留に係る経費の一部を行政が補助する方法が最も妥当であるため。				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	経営安定対策にきわめて高い効果があるため。				
事業の 算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	3	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	今後も同程度の事業が見込まれるため。				
人体 員制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	兼任業務であり、現状の人員以上の削減が困難なため。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	酪農振興に寄与しており、現状維持が望ましいため。				
その他、特記事項	事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。				
市単独事業であるため、今後見直しを協議する。					
部長	課長	班長	担当者	内線 2550 E-mail @bungo-ohno.jp	